

ほむ・ほむ通信

No. **36**

夏休みにユニセフの学習会を開催してみませんか？

夏休みももうすぐ。子どもたちも参加できるユニセフ学習企画をご紹介します。



子ども向けマネー学習会の中でユニセフの活動も学習

コープぐんま

(2006 年度ユニセフリーダー研修・交流会で発表いただいた事例です)

夏休み、コープぐんまのフィナンシャルプランナーの協力で、子ども達が買い物をする中で、お金の価値や使い方を学ぶ、子ども向けの「マネー学習会」が開催されました。そこにユニセフの活動も組み合わせて、ユニセフの会メンバーから、ユニセフの活動内容や募金の使われ方などを子どもたちに教える会を開きました。

ユニセフ手帳から内容を引用し、ふりがなをふった「100 円でできること」というビラを作成・配布したほか、フリップボード（スケッチブック）を使い、イラストをアイキャッチにして子どもたちの興味を引きながら、ユニセフのことを説明しました。

◆フリップチャートの内容◆

表（イラスト）	説明
ユニセフロゴ	このマークを知っていますか？これはユニセフのマークです。お店や皆さんの学校のどこかにもあるはずです。夏休みがあげたら探してみてくださいね。
赤ちゃん 2 万 9000 という数字	5 歳の誕生日を迎えられずに命を失う子どもの数。
3 人に 1 人（食事の絵）	栄養不良の子ども
1 億 2100 万人	勉強したくてもできない子どもの数
100 円玉のイラスト	100 円でできること。ワクチンや ORS がこんなに買えるんですよ…

！子ども向け資料をご活用ください

日本ユニセフ協会では、ユニセフの活動をわかりやすく紹介したユニセフ手帳や子ども用ちらしなどの子ども向け資料を用意しています。学習会などでご活用ください。

<http://www.unicef.or.jp/kodomo/nani/siryo/siryo.htm>

※資料には一部有料のものがあります。詳しくは、日本ユニセフ協会 団体・組織事業部 生協担当までお尋ねください。





(2006 年度ユニセフリーダー研修・交流会で発表いただいた事例です)

手作り紙芝居をはじめ、水はこびの体験や食料分配のゲームなどを行い、子どもが楽しみながら、学べるユニセフの学習会を開催しました。

学習会スケジュール**2006 年 8 月 24 日****10:15～ 開会・ユニセフの取組み****10:20～ ユニセフビデオ**

「ユニセフと地球のともだち」「タムタムとビルの街」

10:50～ 手作り紙芝居「水と衛生」**11:00～ 体験・ゲーム「水はこび・食料の分配・ユニセフクイズ」****11:30～ 手芸 ようじ立てを作ろう****12:00～ 昼食****12:30 閉会**

紙芝居「水と衛生」

**水がめ運び体験**

砂を 1kg ずつ小分けにして用意し、自分は何 kg まで運べるかという形式にしました。そして、行きは空の水がめ 3kg を持って行けばいいが、帰りは水を入れるので 15kg になるのだということを、ひとつ 1kg の砂袋をかごに徐々に入れていくことで体験しました。

食料分配ゲーム

簡単にするために、富める国と貧しい国の両極端に食料を分配するという形式をとりました。受付の段階で、参加者に 2 色の色紙を配っておき、色紙の色別に参加者をわけました。その後、片方は先進国の人で、もう片方は開発途上国の人であることを伝え、お昼のために用意してあったパンを先進国の人には大量に、開発途上国の人には少なく分配。子どもたちからは、「不公平だ」という言葉が出ます。しかし、これが現実で、多く食料がありすぎて捨てる人がある、一方、十分な食べ物を手に入れることができない人があるということを学んでもらいました。

**！ ビデオやパネル、ポスターをご活用ください**

ユニセフ視聴覚ライブラリーでは、ビデオや展示パネルの貸し出しをしています。ビデオは 15 分程度、展示パネルは 10 枚セット(B2 サイズ)です。

ユニセフ協会 HP でビデオやパネルのリストと、お申込先一覧がご覧になれますので、是非ご活用ください。往復の送料のご負担のみでお借りいただけます。ほとんどのビデオはダビングも可能です。

http://www.unicef.or.jp/library/library_lib.html

また、10 枚セットのポスターセットやユニセフポスター(1 枚もの)をお送りすることもできます。イベントが学習会、会議などにご活用ください。

毎年3月に地区持ち回りで実施しているユニセフ募金贈呈式。スタディツアーの報告のほか、指定募金先のラオスの日常生活がわかるような品や、支援物資を展示したり、ミニコンサートを開いたり、ラオスの食事の試食をしたりと、親子で楽しめる内容で工夫がこらされています。今年は、手作りのユニセフすごろくもお目見え。すごろくは2セット用意して、机の上でこまを動かしながら、子どもたちが気軽に参加できるようにしました。参加賞も用意されていて、子どもたちも大喜びで参加していました。



ラオスの品物や写真を展示



京都生協自作のすごろく。(上) 小さな紙コップで作られた
コマもキュート。子ども用に簡単にしました。(左)



ラオスに関するクイズに答えよう！地球儀でラオスの場所を調べたり、国旗に色を塗ったり…、ラオスのあいさつってどんな風かな？



さいたまコープ & 日本ユニセフ協会埼玉県支部

ユニセフラブウォークin長瀬を開催



ユニセフ・ラブウォーク in 長瀬「春はウキウキ長瀬散策ウォーキング～岩畳と SL に会いに出かけてみませんか～」、さいたまコープ北部地区エリア会と日本ユニセフ協会埼玉県支部の共催で開催しました。ユニセフ・ラブウォークは“健康づくりのウォーク”と“募金運動”とを結びつけ、1965 年にイギリスで生まれ、現在、欧米諸国では気軽にできるユニセフ支援活動として盛んに行われています。

開催日時:	2007 年 3 月 31 日(土)
コース:	秩父鉄道野上駅スタート～法善寺(しだれ桜名所)～金石水管橋～北桜通り～岩だたみ通り～岩畳～虎石～上長瀬広場ゴール (約 5km)10 時スタート 11 時 15 分～11 時 45 分ゴール
参加者:	子ども・大人で 86 人
募金のご協力:	17,307 円
協力:	参加賞として、FM NACK5より「ステッカー」、埼玉県総合政策部国際課より「クリアファイル」、さいたまコープ北部エリア会より「飲料」また、ユニセフクイズでは、さいたまコープ北部エリア会より「図書券」をご提供いただきました。

コースには、法善寺のしだれ桜、岩畳、SLの通過を見ることなど、お楽しみがたくさん用意されました。コースの案内や安全体制は北部地区エリア委員さんが分担し関わっていただき、事故も無く、全員がゴールしました。

12 時からユニセフ〇×クイズをおこない、親子で真剣に答えを考えている姿は微笑ましさを感じました。クイズに最後まで残った 10 人の方にさいたまコープ北部エリア会より図書券が贈られました。

ユニセフ・ラブウォークの開催を検討されている方には資料をお送りします。

お気軽にお問い合わせください。

日本ユニセフ協会 団体・組織事業部 ラブウォーク係 TEL:03-5789-2012

「あきたユニセフのつどい」を開催しました

2007年4月19日、秋田県生活協同組合連合会の主催で、「あきたユニセフのつどい」を開催しました。従来の募金贈呈式から、ユニセフ活動について学び・交流する場として「つどい」の名称に変更して今年で4回目となり、県内の会員生協にも恒例の行事として定着してきております。今年のつどいにはユニセフ募金に取り組んでいる県内の会員生協(県北、市民、大学、全労済、県南、由利準備会)より約50名が参加しました。

募金贈呈式

今年も、目標額を大きく上回る1,183,741円の善意を贈呈することができました。



学習会

募金の指定募金先のネパールの学習会が行いました。ビデオや日本ユニセフ協会の林田さんのお話を通して、まだよく知られていない現地の状況について理解を深めました。

ユニセフ活動報告

それぞれの生協が行っているユニセフ募金活動の発表があり、交流を深めました。

ユニセフすごろく体験

それぞれの代表者が実際にすごろくのシート上でコマとなり、楽しみながらユニセフ活動や子どもたちの現状を学習しました。周囲で見ていた参加者もさいころの目に一喜一憂しながら、自分たちの代表に声援を送りました。



会場の様子

会場では各生協から持ち寄られた手作りの小物やお菓子が販売され、大変賑わいました。この販売の収益は、すべてユニセフ募金として後日送金されることになります。

また「スクール・イン・ア・バッグ」と呼ばれる、現地に送られる学習セットが展示され、鉛筆・消しゴム・ノートなどを実際に手に取る参加者の姿が多く見られました。

知りたい? 知っここ。ユニセフ ～地雷編～

Q. 地雷や、不発弾が問題になっているクラスター爆弾について 教えてください

地雷

地雷 **対戦車地雷**・・・90～200 k g の重さで爆発
対人地雷・・・5～10 k g の重さで爆発。殺すのではなく
負傷させることが目的。負傷させることで、救護に人がとられ、
恐怖で戦意をうばう効果も期待できた。安価であり、取り扱い
も楽なことから、大量に生産、埋設される結果となった。

悪魔の兵器と呼ばれる理由・・・

- ☆ 犠牲となるのは戦闘員だけでなく、民間人とともに子どもたち。
戦争終了後も普通の生活の場に潜む脅威。
- ☆ 長期にわたってその威力は衰えない。第二次世界大戦当時の地雷での被害があることもある。
- ☆ 大けがをさせることが 目的のため、その後治療にかかる身体的、
経済的負担は大きい。子どもの場合義足などは成長に合わせて、
取り替えなくてはならない。
- ☆ 農地などに埋められていると近づけず、農作物がつかれないという
経済的ダメージも大きい

取り除く作業の困難

地雷は1個 300 円位で作れるものもある。といわれている。しかし、
それを取り除く作業となると、現在は探知の難しいプラスチック製の
ものも多く、1 個に対して 100 倍以上もの費用がかかるといわれている。
その作業は危険で、根気のいるもので、探知器、除去機材等の開発は
あるものの、手作業が主流の状態。

作らない・使わない・輸出しない・蓄えない

オタワ条約(「対人地雷の使用・貯蔵・生産・及び移譲の禁止並びに
廃棄に関する条約」1997 年 12 月、日本も含めた 122 カ国によって調印。
2007 年 4 月現在 155 の国が条約に調印/加盟、153 カ国が批准/加盟
している。

これ以上の被害を食い止めようとの条約であるが、残念なことに
多数地雷を保有しているアメリカ、中国、ロシアは参加していない。

クラスター爆弾

数個～数百個の子弾を入れて親爆弾を目標上空で爆発させる。
子爆弾を 広範囲にばらまき それらが地表に到達すると爆発するよう設計
されている。

しかし 多くは不発弾として残り、戦いがおわったあとも長期にわたり
効力をもちつづけ、無差別に民間人とともに子どもがその被害となること
から 第二の地雷 事実上の地雷といわれている。

又不発弾はすぐにも爆発する状態にあるので、除去がとても困難で 莫大な
費用と時間がかかるといわれている。

クラスター爆弾を禁止する条約の作成をめざす、オスロ宣言が採択され
交渉が始まっている。

地雷の模型



ユニセフハウス 2 F に展示してあります
貸し出しもしています

Q.ユニセフでは どんな支援をしているのですか？

- 1) 地雷回避教育—人々に危険性を知らせ、安全に対処できるようにする。
- 2) 地雷の使用廃絶のためのアドボカシーや、戦争後の爆発物の除去
地雷禁止条約や関連法規制が全世界で批准され、施行されることの支援
- 3) 地雷や不発弾による事故によってけがをした子どもたちの支援

危ない！地雷だ



Danger!!mines

危険を知らせる看板

現在、ユニセフは 30 の国と地域で支援活動しています。
アフガニスタン、アルバニア、アンゴラ、アゼルバイジャン、
ボスニア・ヘルツェゴビナ、ブルンジ、カンボジア、チャド、
コロンビア、エリトリア、エチオピア、グルジア、グアテマラ、
ギニア・ビソウ、ラオス、レバノン、モーリタニア、ニカラグア、
北コーカサス、パレスチナ自治区、パナマ、ソマリア、スリランカ、
スーダン、ゴラン高原 (シリア)、ベトナム

対人地雷の生産国

ミャンマー・中国・キューバ・インド・イラン・北朝鮮・韓国・
ネパール・パキスタン・ロシア・シンガポール・アメリカ・ベトナム
(地雷廃絶国際キャンペーン Landmine monitor2005 より)

(山本直子)



世界の 子ども達は今

＜アンゴラ＞

(文) 松本真弓

(絵) 蛸沢素子



気をつけて
ねー！

アンゴラは、世界で
もっとも多くの地雷が埋設さ
れている国のひとつなんだ！
20年も続いた内戦で、道や畑
や川辺など、いたる所に埋
められているんだ！！

だけど、家族を支え
食べていくために、危険を
承知で畑を耕したり、水くみに
行かなくちゃならないんだ……
戦争は終わっても、今なお人の手や
足・命までうばってるんだよ！

ユニセフは1996年からアンゴラの地雷回
避教育を支援しています。2005 年から
2006 年にかけて、教育を受けた人の数は
30 万人を超えます。

BOMMM

角虫っちゃ
ダメ～！

お兄ちゃん！！
何でも合う
クセあるん
だから！！

このマークが
「地雷あり注意」です。
このように、いろんな
形のものがありますが、絶対さわら
ないで下さい！

ユニセフが支援を行っている NGO では、小・
中学校就学年齢の子どもたちが、自ら地雷の危
険について教えることのできる「小さな先生」
になるための研修を行っています。
地雷回避教育には、すごろくも使われていま
す。日本のすごろくと違い、アンゴラのすごろ
くには「実際に起こり得る危険」が書かれてい
ます。





TOPICS

スマトラ沖地震・津波 復興支援報告

2007 年 4 月 5 日、インドネシア・アチェ報告会が開催されました

インドネシア・アチェでの教育分野の復興支援報告してくださったのは、ユニセフ・コンゴ民主共和国事務所教育担当官（前ユニセフ・アチェ現地事務所教育担当官）の青木佐代子さん。インドネシアでは、総勢 158 人のユニセフスタッフ（72%は現地スタッフ）が任務にあたり、津波からの復興支援に取り組んだそうです。



緊急支援（テント学校）：

当初は、6m×12m のテント学校をつくり、子どもたちが同世代の子どもと話したり遊んだりできるようにしました。様々な学用品が入った、スクール・イン・ア・ボックスを配りましたが、インドネシア版のスクール・イン・ア・ボックスにはバックパックが入っていて、子どもたちは特に喜んでいました。家具がなく、ちゃぶ台のような机を調達して使用している学校もありました。

復興初期（仮設校舎）：

恒久の学校を建てるまでのつなぎとして、仮設や準恒久校舎を使用しました。森林伐採が問題視されており、津波後 4 ヶ月のときには木材が入ってこなかったため、木材の使用を最小限にして、コンクリートを使いながら学校建設をすすめました。また、教員の研修も行います。約 2,500 人の先生が被災して亡くなったので、1,000 人の新しい先生をリクルートして研修しました。アチェでユニセフの研修プログラムを受講した教員は、2,586 人以上にもなります。

復興後期（恒久校舎）：

ユニセフは、“子どもにやさしい”学校の建設をすすめました。その特徴の一つは、耐震性の校舎です。例えば、セメントの砂や水の分量といった細かいことにも配慮します。また、安全性を高めるため、教室にはドアを必ず二つつけて、片方のドアが開かなくてももうひとつあくように配慮しています。男女別の使いやすくて清潔で明るいトイレ、自然光が入る明るい教室、障害をもった子どももアクセスしやすい校舎、コミュニティが参加しやすい学校づくりを行っています。2007 年 4 月現在、アチェとニマス島で 14 校が完成し、86 校建設中です。入札中のものも含めれば 200 校近い学校建設プロジェクトが動いています。

2006 年 10 月から、ユニセフは元紛争地域にも支援を拡大しました。津波被災地に支援が偏り、社会的な不満が生じる問題が出てきたため、平和構築のためにも、平等に支援をすることになりました。内戦が一番激しかったのは 2002 年で、焼かれた学校も多く、今でも銃弾の跡が壁に残る学校もあります。現在までに、45 校を再建しました。



バンダ・アチェにある公立第 96 小学校は、ユニセフの支援で再建されました。2 階建ての耐震性校舎は約 16 万ドルで建設されました。今まで使われていた仮設校舎は、幼稚園とコミュニティセンターとして活用されます。

イブ・フリン校長先生は言います。



「ユニセフは地震後、この学校の生徒をずっと支援してくれました。徐々に、学習環境や生活環境もよくなってきました。地域の人みんなこの学校を誇りに思っています。」

ソロモン地震・津波緊急募金

2007年4月2日に南太平洋ソロモン諸島を襲った巨大地震と津波。ユニセフは、発生直後から現地にスタッフを派遣し、緊急支援および初期段階の復興支援活動を展開しています。ユニセフの活動は主に、保健、栄養、水と衛生、教育、子どもの保護に焦点をあてて実施されています。地震・津波の直接的な被害を受けた人は1万人以上。多くの家族は家屋だけでなく、生活手段（漁業、野菜農園）をも失い、避難生活を送っています。ユニセフは、当初の50万米ドルの支援要請に追加して、初期の復興支援活動費用として130万米ドルの支援を国際社会に要請しています。



©UNICEF EAPRO

ユニセフが配布している支援物資（5月7日時点、計画中含む）

家族用テント	250 張
スクール・イ・ア・ボックス	80 セット
レクリエーションキット	144 セット
防水シート	172 枚
折りたたみ可能な家庭用貯水タンク	4,450 個
大型の貯水タンク	5 基
病院用の緊急保健キット	8 キット
経口補水塩	3 万袋
ビタミン剤	9 万袋
石けん	6,500 個



© UNICEF Fiji/2007/McCauley

ユニセフは、保健、水と衛生、教育などの社会サービス復興のための活動、子どもたちを危険から守り、安全に遊ぶことのできる環境の構築などの活動を今後も継続して行います。

「世界子供白書2007」の日本語版ビデオ（15分）ができました

ユニセフは毎年、世界の子どもたちを取り巻くさまざまな問題をその年のテーマに沿って詳しく調査・分析し、その解決策を模索しています。今年のテーマは、女性の地位向上（エンパワーメント）です。ビデオのタイトルは「女性と子ども—ジェンダーの平等がもたらす二重の恩恵—」です。

国連は、2000年秋のミレニアム総会において、子どものためによりよい世界を築くことを約束しています。今年の白書では、その目標を達成するため女性の地位向上が不可欠であることを世界に呼びかけました。

「女子に対するあらゆる形態の差別撤廃に関する条約」が採択され、今年で28年になります。いまだに女性は、男性に比べて教育・家庭・職場（雇用）・政治の分野などで不利な状況下におかれ、その生涯を通して差別があることが報告されています。

しかし、女性の権利が尊重され、充実した生活が送れると、よい影響がもたらされることを4人の女性がいきいきと伝えています。男性と対等な立場で活躍するマダカスカルのモアナ、スラムの生活向上に努力するバングラディッシュのドリー

は17才の少女です。夫と平等・責任を分かち合うニューヨークのマルサ、イランのサーラは政府の役人です。ジェンダーの平等がもたらす二重の恩恵が理解できる映像です。

途上国、先進国を問わず子どもの養育者として重要な役割を持つ女性の地位向上は世界の最重要課題の一つであることを、今年の白書は伝えています。

（浜崎睦子）



世界子供白書2007

ユニセフ「子どもとエイズ」世界キャンペーン



HIV の母子感染の98%は予防可能です。しかし、感染予防を必要とする女性の9割が何のケアも受けられずにより、その結果、2006 年だけで53 万人の子どもたちが母親から HIV に感染しました。

2005年から展開されている「子どもとエイズ」世界キャンペーン。日本ユニセフ協会でも、積極的な広報活動と募金キャンペーンを展開し、この

ぼむぼむ通信でも 2006 年度全4回にわたり、HIV/エイズと子どもについて情報をお届けしてきました。

現在、日本ユニセフ協会のホームページでは、「母子感染の予防」をテーマに特集ページを作成しています。

http://www.unicef.or.jp/campaign/051025/mother-to-child_index.html

又、日本ユニセフ協会では「子どもとエイズ」募金を受付中です。みなさまのご協力をよろしくお願い申し上げます。

日野原重明氏 日本ユニセフ協会大使に就任

(財)日本ユニセフ協会は、9 日、日野原重明氏(明治 44 年 10 月 4 日生山口県出身)をアグネス・チャン氏(1998 年 4 月 6 日に就任)に続いて2 人目となる日本ユニセフ協会大使に任命しました。

聖路加国際病院の理事長をはじめ、国内外の医学会の会長・顧問等数々の要職を勤められる日野原氏の活躍は、医学、医療の現場に止まらず、多方面にわたっています。長年に渡る全国での講演活動や多くの著作を通じ、医師としての立場・医療という領域を超え、いのちの大切さ、平和の尊さなどを、特に次代を担う日本の子どもたちに訴え、その活動や発言は、多方面から支持を得ています。こうした日野原氏の精神と活動は、子どもの権利を実現しようとするユニセフの精神・目的と相通ずるものであり、この度、日本ユニセフ協会大使に就任される運びとなりました。



©日本ユニセフ協会

(全体レイアウト 尾澤結花)

ぼむぼむ広場

☆ぼむぼむ通信の通算 36 号をお届けします。全国のユニセフ協力活動の交流誌としての役割はもちろん、世界の国々や子どもたちの様子も積極的に紹介していきます。また、各地の活動の参考になるような取り組みのご案内も行っています。

☆全国の活動事例や、ぼむぼむ通信の感想・ご意見をぜひお寄せください。

☆次号は、10 月 15 日発行です。お楽しみに！

ユニセフ*コープネットワーク
ぼむ・ぼむ通信

No.36 2007 年 6 月 15 日発行

編集 グループ ぼむ・ぼむ

スタッフ・編集／尾澤・谷杉・浜崎・福本・藤森・
松本・山本・林田・高井

イラスト／蛭沢

発行 日本生協連 組合員活動部

〒150-8913

東京都渋谷区渋谷 3-29-8 コーププラザ 11F

TEL03-5778-8124 FAX03-5778-8125

ホームページ <http://www.jccu.coop/>